操作リファレンス

アラームと接続切断からの復旧

アラームや接続切断の後は、報告された状態を基に復旧確認を整理します。

このガイドはAIで翻訳されています。重要な手順は英語の原文と照合してください。

レビュー範囲

記述式レビューのみ行います。**機械なし**を選択したまま、**未接続**の状態を維持してください。故障、発射、コントローラーの実行は必要ありません。任意のdemo-projectsにはコースの機械リンクが削除され、例としてのデザインと設定だけが残されています。

アラーム	接続切断	電源を入れ直す
正確なコードを記録	実際の状態を確認	基準位置を復元

故障を発生させる練習ではなく、シナリオを確認します。実際のコントローラーの手順によって復旧方法が決まります。

1. 故障を再現せずに、このリファレンスを使用してください。接続切断とアラームでは、必要な確認が異なります。

2. アラームが発生した場合は、解除する前に**正確なコードとメッセージ**を記録してください。原因については、お使いのコントローラーのガイドを確認してください。

3. 機械側で原因を解消してください。**ロック解除でアラームは解除されます**が、原因が修復されたり、位置の基準が確立されたりするわけではありません。

4. 接続が失われると、Beam Benchはコントローラーの実際の状態を把握できなくなります。ヘッドが停止したと決めつけないでください。必要に応じて、機械の停止操作を使用してください。

5. 再接続または電源の入れ直し後、起動時のゼロ表示だけでは有効な基準位置の証明になりません。文書化された機械固有の基準位置設定手順を使用してください。

6. 次の実行の前に、すでに行った作業、素材、プロファイル、モード、原点、予定出力を確認してください。メッセージを閉じたりプロジェクトを保存したりしても、中断されたセッションが再開または保持されるわけではありません。

シナリオレビュー

シナリオレビュー

以下の各シナリオで何を確認するか説明してください。機械は未接続のままにし、練習のためにアラームを発生させたり、実行中のコントローラーを抜いたり、電源を入れ直したりしないでください。

□ メッセージを解除すること、原因を解消すること、基準位置を復元することを分けて考えてください。

□ 再起動を判断する前に、完了した彫刻やカットを考慮してください。

アラームが表示されました。何を記録すべきですか。また、ロック解除では何が起こりますか。

接続が消えました。ヘッドが停止したと決めつけられますか。

コントローラーがゼロ位置で再起動しました。基準位置は確立されていますか。

比較の意味を保つ

保存された項目と説明された判断を比較してください。ファイルやソフトウェアの状態だけでは、実際の機械を検証できません。

解説付き回答とファイル

解説付き回答とファイル

アラーム
正確なコードまたはメッセージを記録し、コントローラーのガイドを確認します。ロック解除で解除されるのはアラームであり、原因や位置の基準ではありません。

接続切断
いいえ。実際の機械の状態を確認してください。機械自体の停止操作が引き続き重要です。

起動時のゼロ表示
いいえ。後続の実行を評価する前に、文書化された基準位置設定手順に従ってください。

recovery-finished.lzrproj
demo-projects内の任意の例、デザインと設定のみ。

recovery-practice.lzrproj
demo-projects内の任意の例、デザインと設定のみ。

recovery-start.lzrproj
demo-projects内の任意の例、デザインと設定のみ。

このリファレンスだけでは、機械が再起動の準備ができていることを証明できません。任意のdemo-projectsに保存されるのはデザインと設定だけであり、中断されたコントローラーセッションは保存されません。

該当する箇所では、実演されたBeam Bench 0.2.37の操作と、修正された終盤の内容に一致します。後のパネルレイアウトは異なる場合があります。